

令和6年度 全国学力・学習状況調査及び佐賀県小・中学校学習状況調査の結果の公表にあたって
武雄市教育委員会

武雄市は平成24年度から学校ごとに公表した学習状況調査の結果をまとめて、市のホームページで公表してきました。

今年度も保護者・地域住民の皆様に学校の現状と取組、武雄市の取組が分かっていただけるように公表を行います。

学校教育は、「知・徳・体のバランスのより高い調和」を目指しており、今回公表した学力調査結果はその一部です。また、日々成長している子どもたちの現時点での一面であり、今後の取組の資料とするものです。この結果を受け、指導方法の新たな検討、校内研修の活性化等に取り組めます。

保護者・市民のみなさまに学習状況・意識調査（家庭や地域での学習や生活状況）の結果をお知らせすることにより、武雄市の教育への関心を高め、市民総ぐるみで教育を考えていただく機会にしたいと思えます。

児童、生徒の学力の向上には学校と家庭や地域との連携が必要です。今回、学習状況・意識調査を合わせて公表することで連携体制をより強くしていきたいと思っております。

公表は、小学6年生、中学3年生は全国学力・学習状況調査、その他は佐賀県学力学習状況調査の結果です。

全国学力・学習状況調査は、「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を一体的に問う問題の調査となっています。

各学校のホームページには、学校ごとの分析と改善に向けた具体的な取組を掲載しておりますので、あわせてご覧ください。

実態分析と改善に向けた 具体的な取組

武雄市 小学校（11校）全体

令和6年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取り組みについて

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

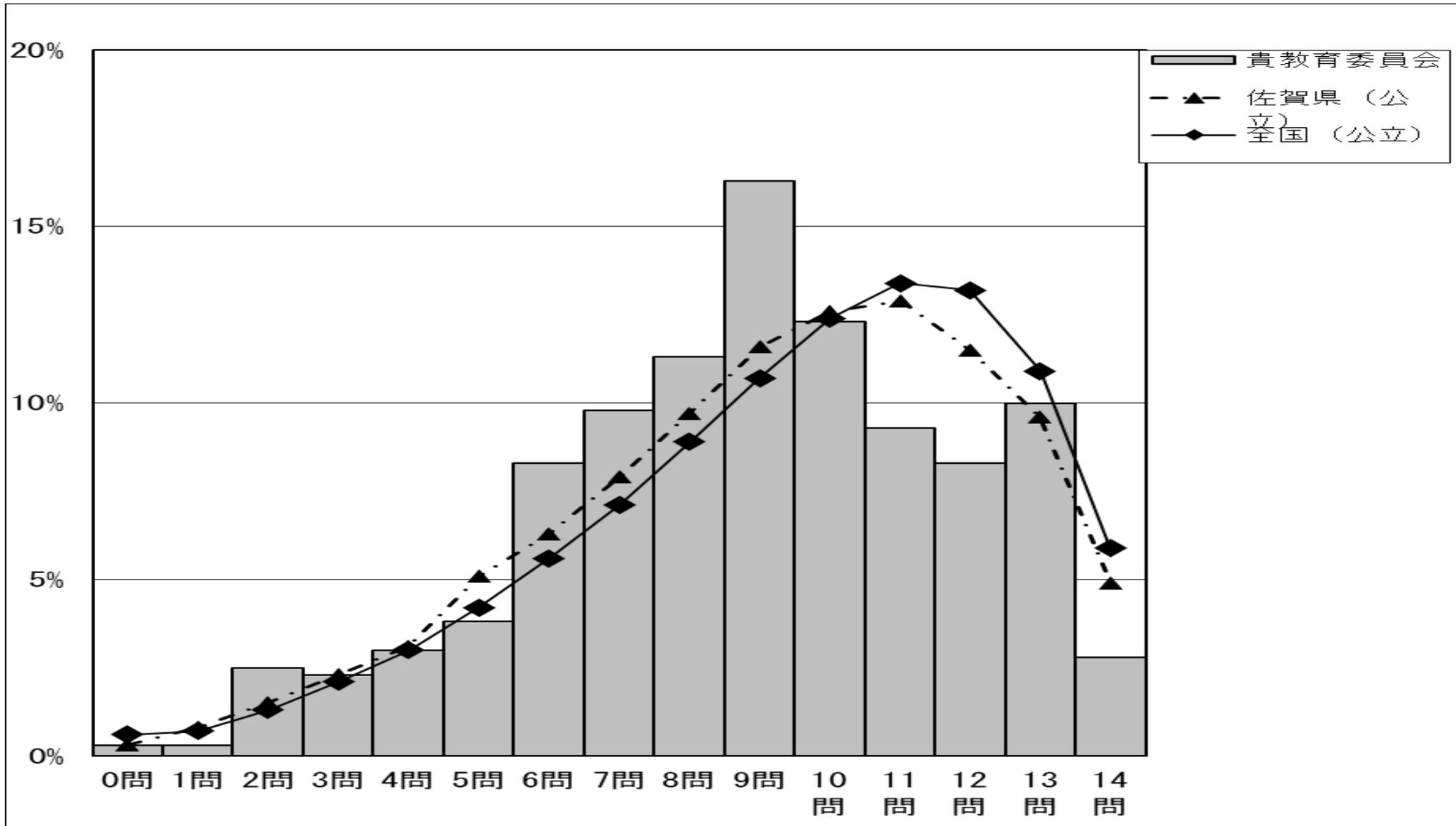
	国語		算数	
	5年時	6年時	5年時	6年時
H31 入学 現6年生	県	全国	県	全国
	(4月)	(4月)	(4月)	(4月)
	65.7	63.0	59.1	60.0
	(0.97)	(0.95)	(0.95)	(0.97)
	R6 正答率の全国比	0.93		0.95

◎5年時は佐賀県小・中学校学習状況調査、6年時は全国・学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

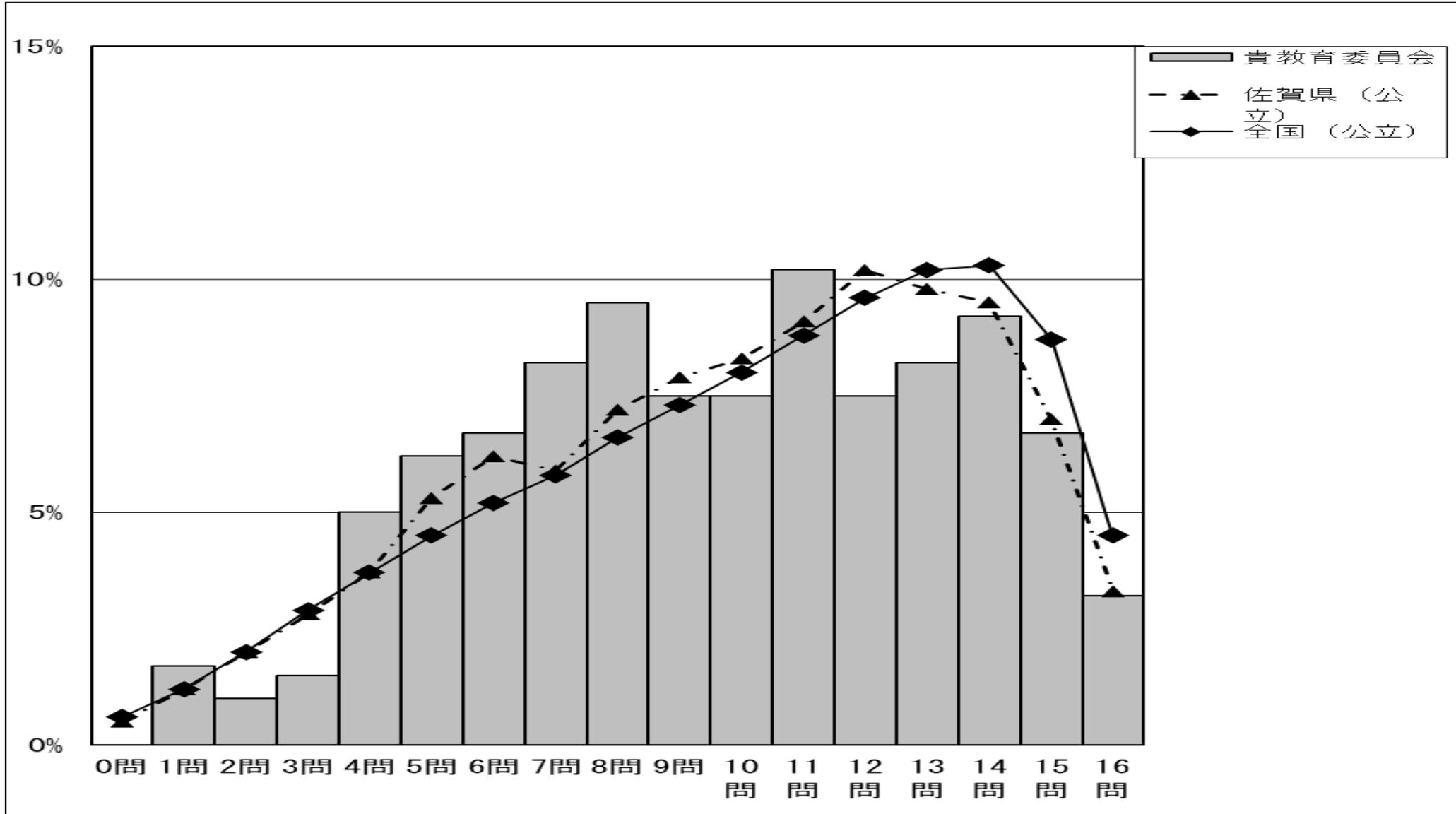
◎「令和6年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）（小6国語）



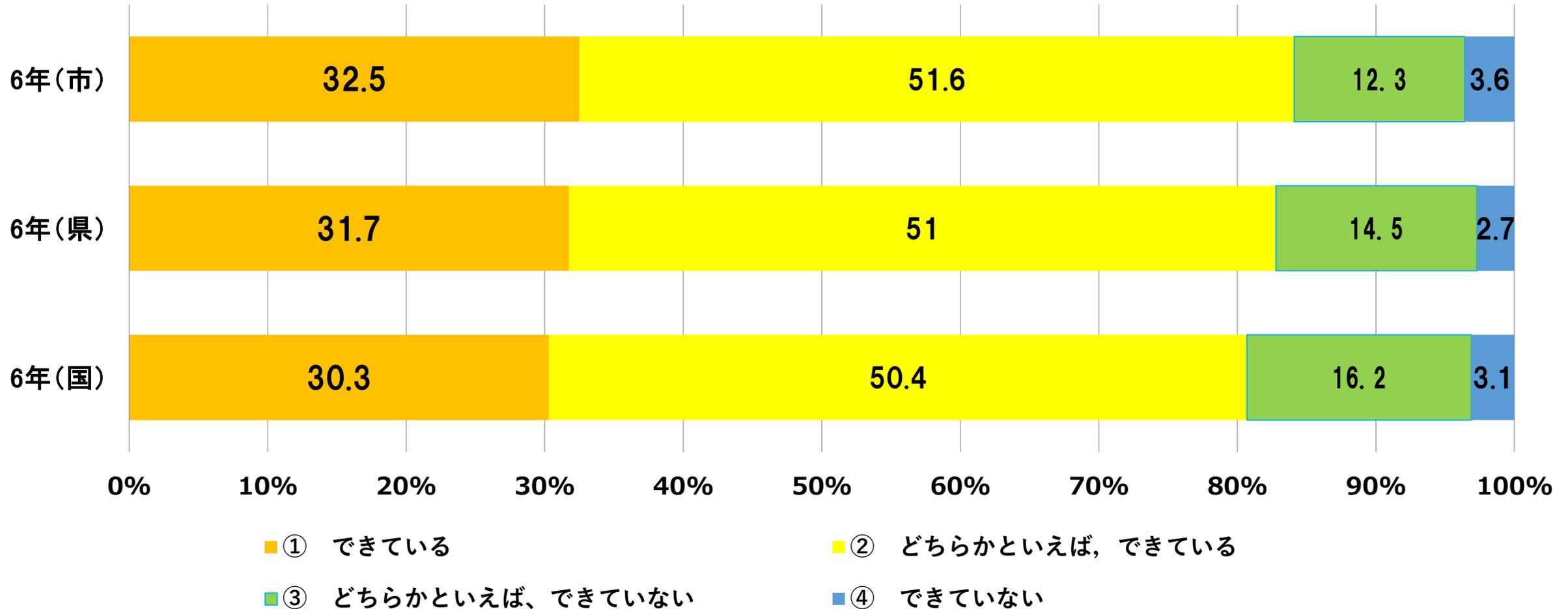
文部科学省 令和6年度全国学力・学習状況調査（小学校）結果より

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）（小6算数）

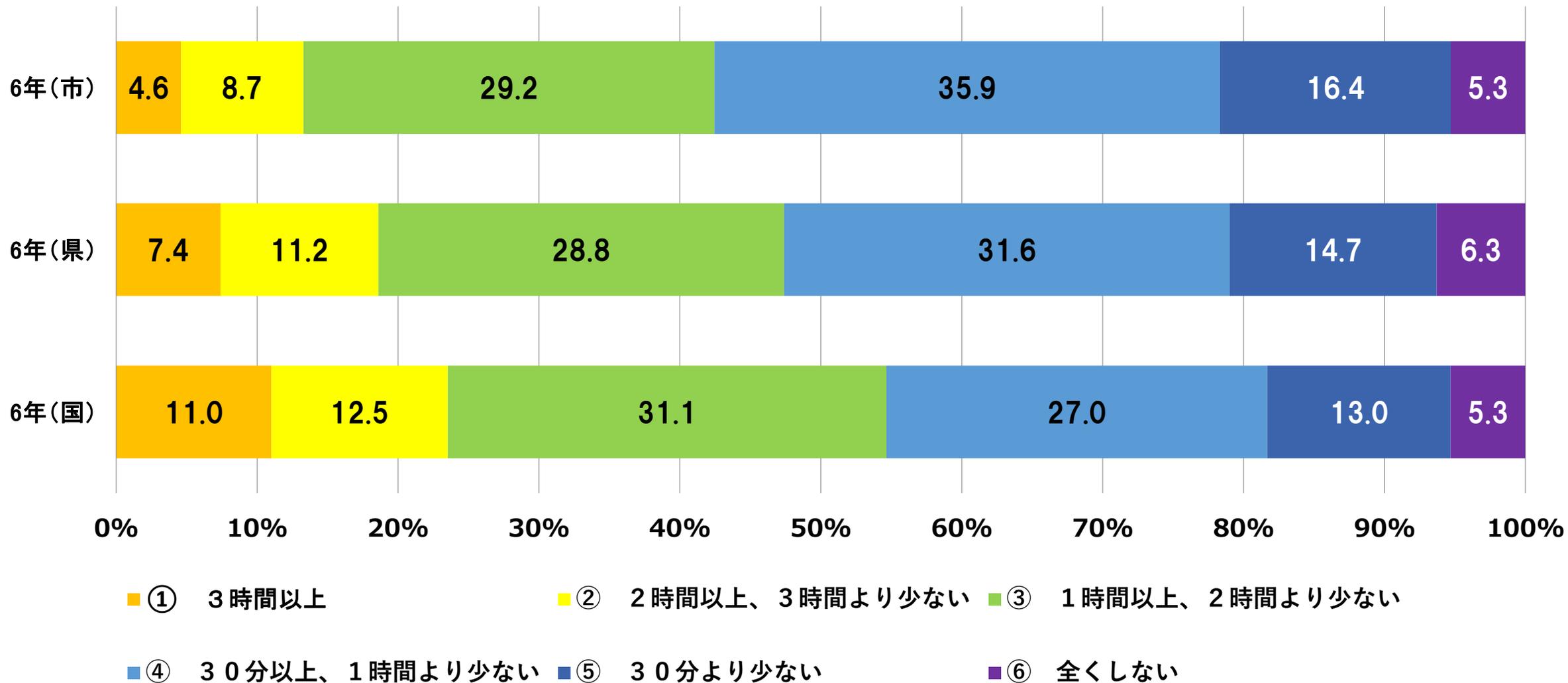


文部科学省 令和6年度全国学力・学習状況調査（小学校）結果より

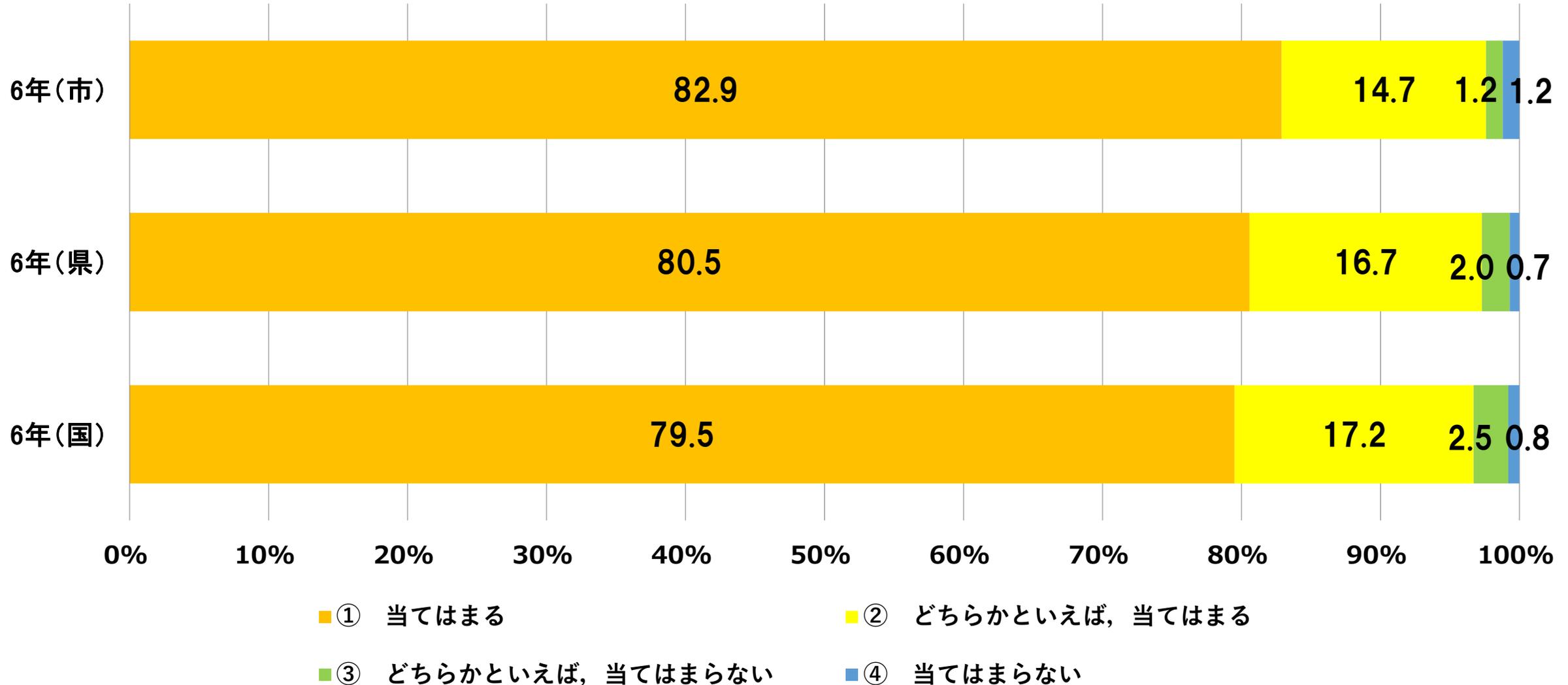
分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていますか。



学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。



いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。



(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態（小学校）

- 平均正答率を見ると、国語は、全国を0.07ポイント下回り、県を0.05ポイント下回る結果であった。算数は、全国を0.05ポイント下回り、県を0.03ポイント下回った結果であった。昨年度よりも両教科とも学力低下がみられた。
- 国語は、昨年度と比較すると、高得点層の増加が見られる一方で、正答数が12問以上（問題数全14問）の割合は、昨年度を5ポイント下回り、全国との12問以上の正答率の差も広がった。算数は、昨年度よりも13問以上（問題数全16問）の割合は増えているが、全国と正答率の差は広がった。国語も算数も低得点層の減少は見られる一方、中得点層の底上げが課題となった。
- 意識調査の「自分にはよいところがあると思いますか」という質問に対しては、肯定的な回答をした児童の割合は、昨年度より4.9%上回っており、県・全国の割合を上回った。
- 意識調査の「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていますか。」という質問に対しては、肯定的な回答をした児童の割合は、県を1.4ポイント、全国を3.4ポイント上回った。
- 意識調査の「学校の授業時間以外で1日当たりどのくらい勉強しているか」という質問に対して、今年度の6年生の児童が「1時間以上3時間以内」と回答した割合は、県を2.1ポイント、全国を5.7ポイント下回り、昨年度より差が広がっており、課題がみられた。約4割の児童しか学年相当の学習時間の確保ができていない。また、土日の学習時間について、「1時間以上」と回答した割合は、県、全国共に下回っている。

2 改善に向けた具体的な取組

【以下の内容について各学校に通知し、共通の取組としていく】

○学習状況調査結果を受けて

- 正答数分布グラフに見られるように、低得点層の底上げと高得点層の拡大がみられた。今後、昨年度同様、低中間得点層の底上げを課題に、継続して学力向上について研修を行い、実践していく。
- 誤答分析を行い、課題を見つけ、授業と一体化した宿題等での補充学習する機会を必ず設ける。
- 学習指導要領がめざす「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る」ための授業改善や職員の授業力向上に努める。
- タブレットドリル等を活用し、基礎学力の向上を図りつつ、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基礎となる資質・能力をさらに育成していくため、各教科の特質を生かしながら学習用端末を活用していく。

○意識調査の結果を受けて

- 「自分にはよいところがありますか」では、昨年度も肯定的な回答が増加していたが、今年度も増加した。引き続き、各学校で児童の自己肯定感を大切にしながら教育活動を進めていく。
- 家庭で「1時間以上の学習」している児童は5割に満たない。一方、「分からないことや詳しく知りたいときがあったときに、自分で学び方を考え工夫することはできている」と回答した児童は8割以上である。このことから、実際の学習時間について、児童自身が振り返ることができるよう「見える化」を図ると共に、児童の必要感を考えた家庭学習につなげたい。

実態分析と改善に向けた 具体的な取組

武雄市 中学校（5校）全体

令和6年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取り組みについて

1 生徒の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

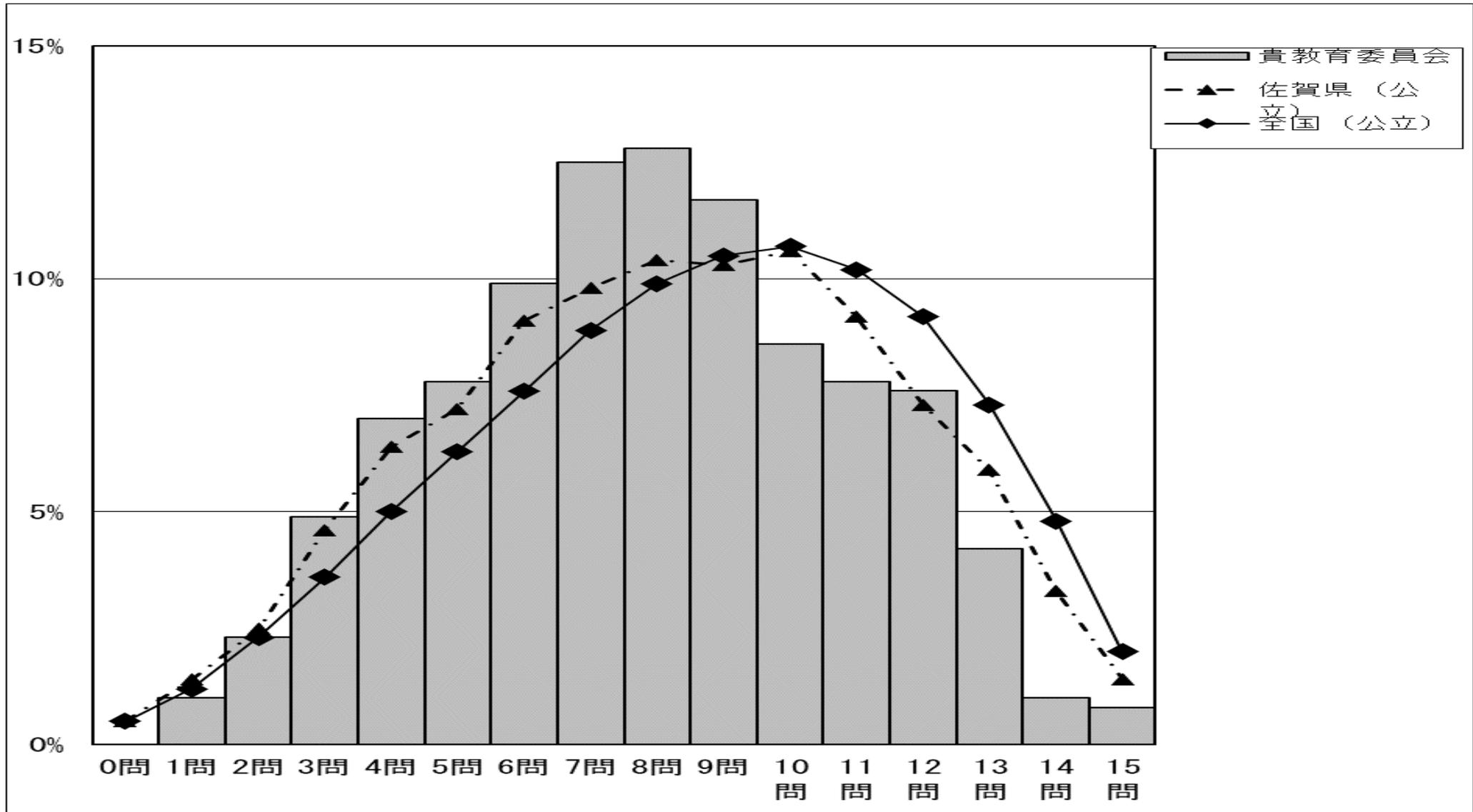
	国語			数学		
	1年時	2年時	3年時	1年時	2年時	3年時
R4入学 現3年生	県 (12月)	県 (4月)	全国 (4月)	県 (12月)	県 (4月)	全国 (4月)
	53.5	55.3	52.0	51.9	45.1	43.0
	(0.94)	(0.93)	(0.94)	(0.90)	(0.90)	(0.89)
	R6正答率の全国比			0.90		0.82

◎ 1・2年時は佐賀県学習状況調査、3年時は全国学力・学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

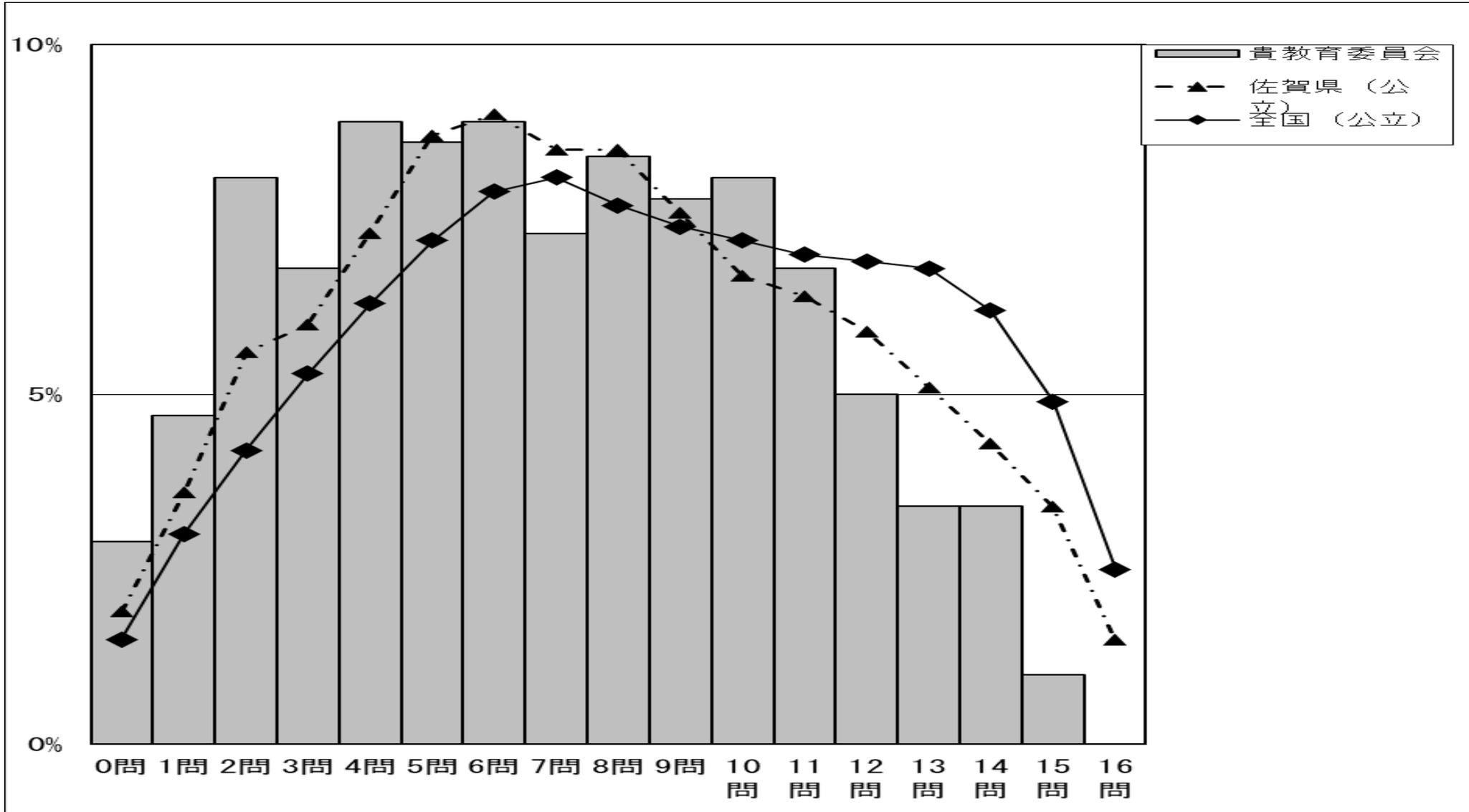
◎ 「令和6年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）（中3国語）



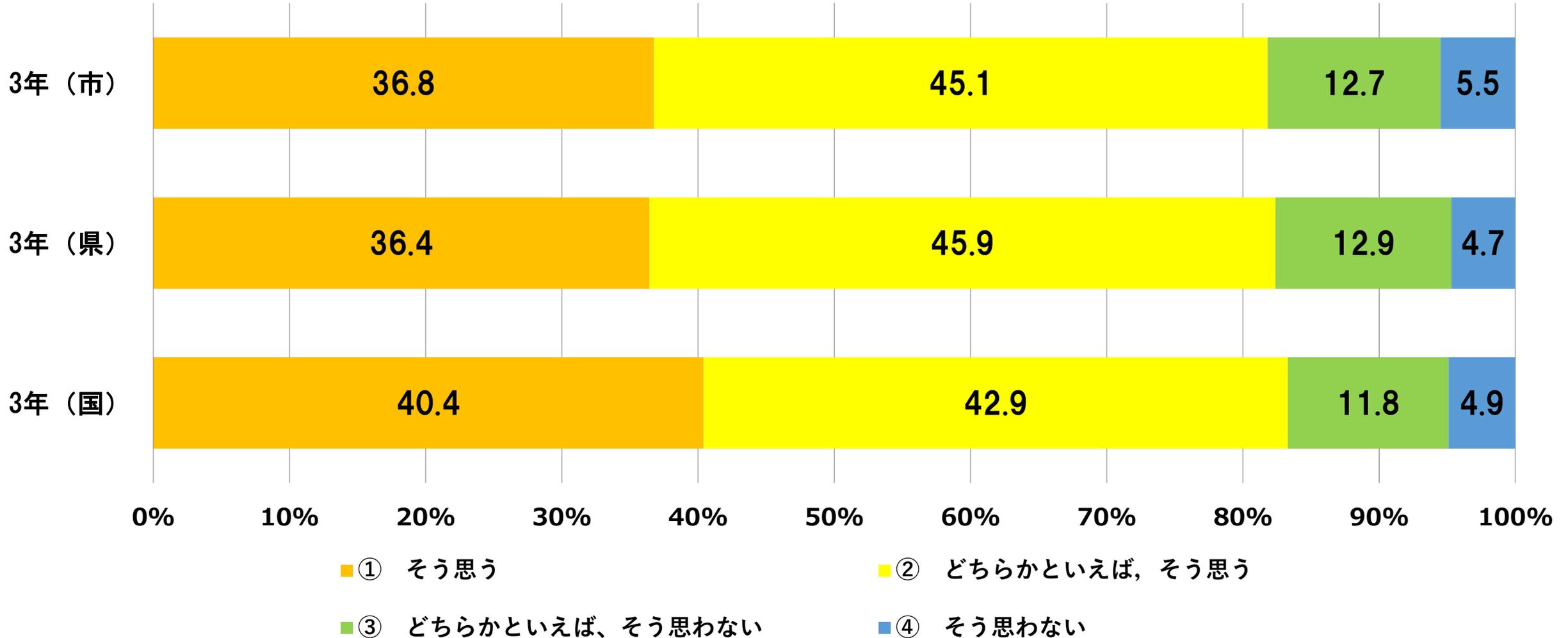
文部科学省 令和6年度全国学力・学習状況調査（中学校）結果より

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）（中3数学）

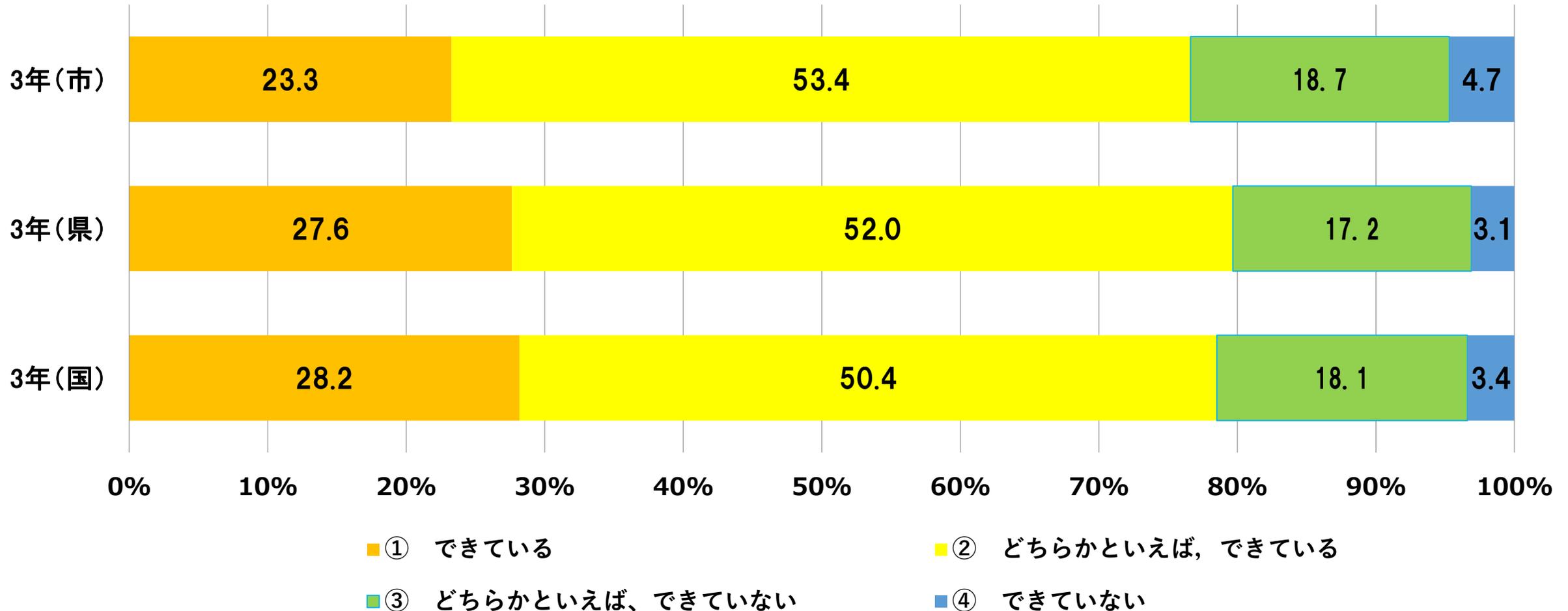


文部科学省 令和6年度全国学力・学習状況調査（中学校）結果より

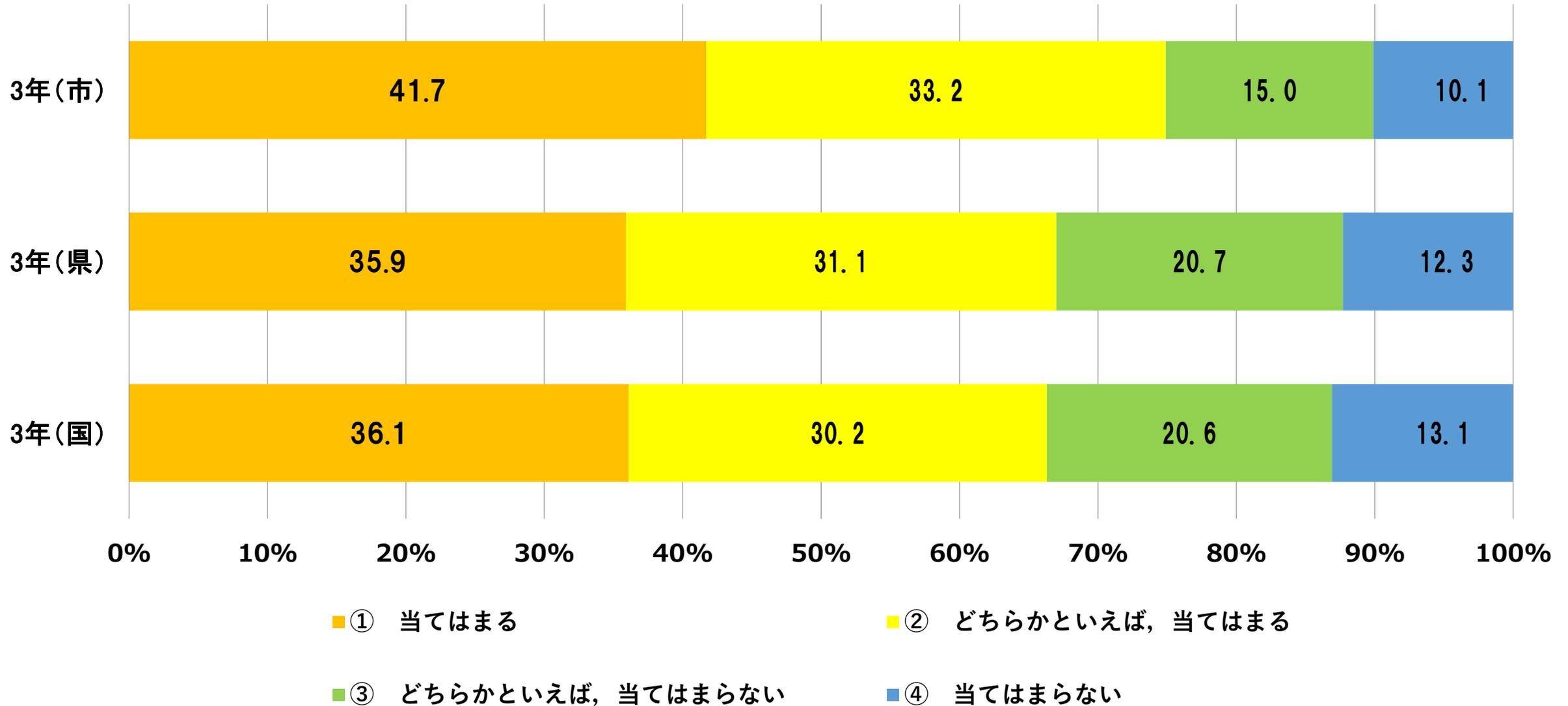
自分には、よいところがあると思いますか。



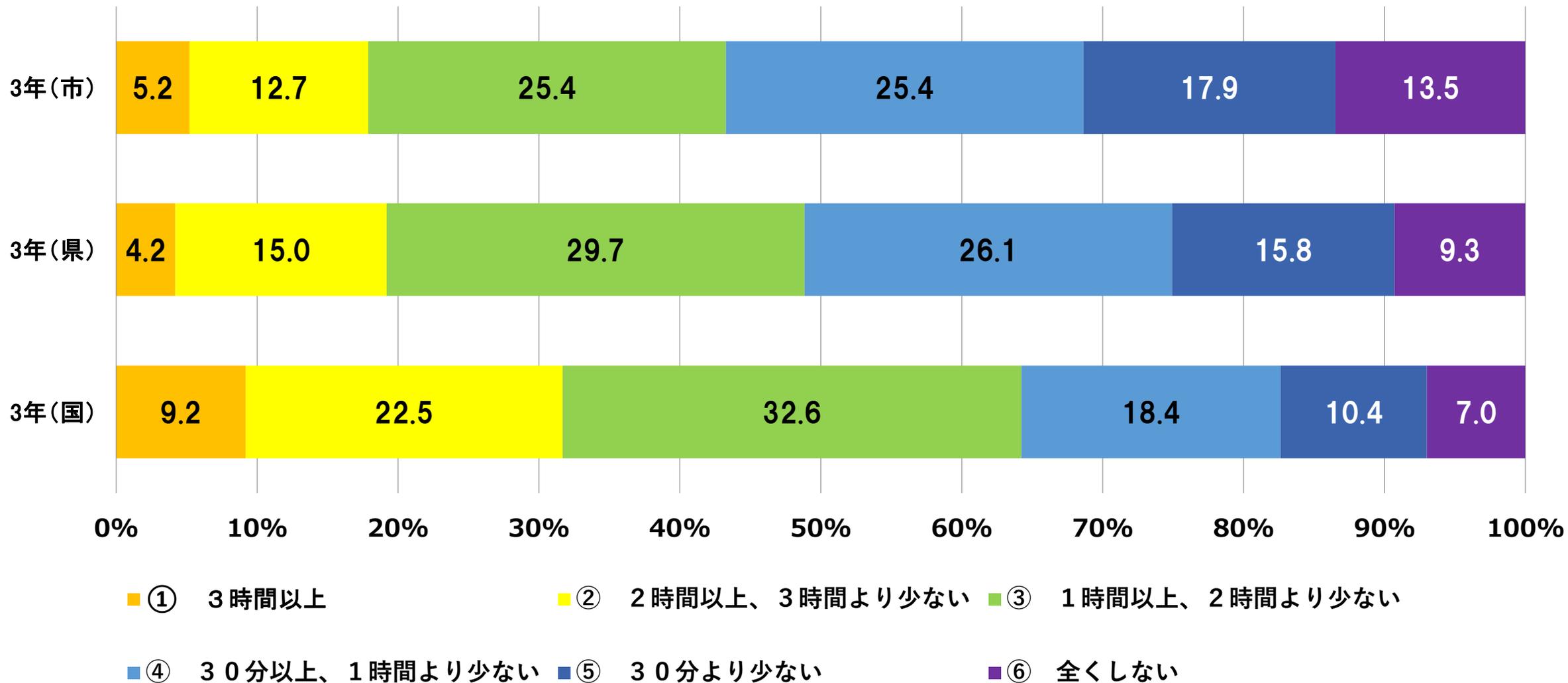
分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていますか。



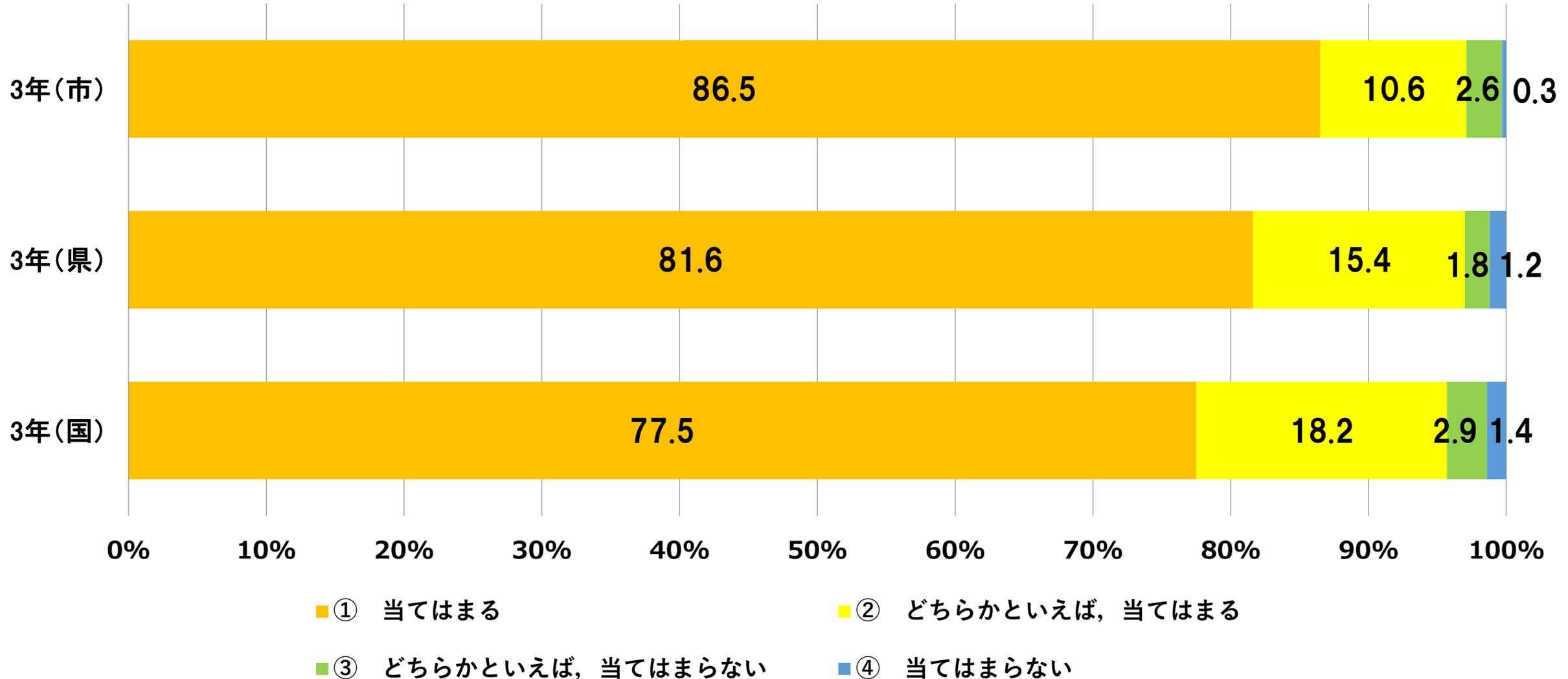
将来の夢や目標を持っていますか。



学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。



いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。



(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態（中学校）

- 平均正答率を見ると、国語は、県を0.06ポイント、全国を0.1ポイント下回った。数学は県を0.11ポイント、全国を0.18ポイント下回った。昨年度と比較すると、国語は、県との比較では0.05ポイント、全国との比較では0.06ポイント下回り、課題が見られた。数学は、県との比較では差は昨年度と変化なく、全国との比較では、0.01ポイント昨年度よりも下回り課題がみられた。
- 各得点層を昨年度と比較すると、国語では高得点層の減少と低得点層の増加から全体的な層で学力低下が課題として見られた。数学では、高得点層の増加と低得点層の減少が見られるが、低中得点層の底上げが課題として見られる。
- 意識調査の「将来の夢や目標を持っていますか。」という質問に対しては、昨年度は65.5%の生徒が肯定的な回答をしたが、県、全国共に若干下回っていた。今年度は、74.9%で、県を7.9ポイント、全国を8.6ポイント上回った。
- 意識調査の「自分にはよいところがあると思いますか」という質問に対しては、昨年度県、全国共に上回っていたが、今年度は、県を0.4ポイント、全国を1.4ポイント下回った。
- 意識調査の「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができますか」という質問に対して、肯定的な回答した生徒の割合は79.7%で、県や全国より数ポイント下回っているが、自己調整して学びを進める素地は育っている。一方で、家庭での学習時間（1時間以上）は、昨年度は、54%で県、全国を下回った。今年度は、43.3%で昨年度をさらに下回り、県を5.6ポイント、全国を21ポイント下回った。特に2時間以上の家庭学習をしている生徒の割合は17.4%で2割に満たず、全国と比較すると、その差が若干広がった。土日の家庭学習時間も同様の傾向で家庭学習の習慣化は引き続き課題といえる。

2 改善に向けた具体的な取組

【以下の内容について各学校に通知し、共通の取組としていく】

○学習状況調査結果を受けて

- 国語と数学は、引き続き低・中得点層の底上げに向けて取り組んでいく。
- 誤答分析を行い、課題を見つけ、授業と一体化した宿題等で補充学習する機会を必ず設ける。
- 学習指導要領がめざす「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る」ための指導方法の改善や職員の授業力向上に努める。
- タブレットドリル等を活用し、基礎学力の向上を図りつつ、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基礎となる資質・能力をさらに育成していくため、各教科の特質を生かしながら学習用端末を活用していく。
- キャリア教育についても引き続き各学校で意識して取り組んでいく。

○意識調査の結果を受けて

- 「自分にはよいところがありますか」では、昨年度同様肯定的な回答が8割を超えている。引き続き、各学校で生徒の自己肯定感を高めることを意識しながら教育活動を進めていく。
- 昨年度課題だった「将来の夢や目標を持っていますか」の肯定的回答の割合は、県や全国の割合を上回り改善傾向にあるため、引き続きキャリア教育に力をいれて取り組んでいく。
- 自己調整して学びを進める素地はできているため、自分の実態に合わせて学習の内容や方法を考えていく大切さについて各学校で引き続き指導していくとともに、各学校で配布している家庭学習の手引きを一層活用していく。また、平日「家庭学習を1時間以上している」生徒の割合が43.3%で昨年度をさらに下回り、特に2時間以上の家庭学習をしている生徒の割合が2割に満たない。このことから、自分の学習時間や学習内容等について、生徒自身が振り返ることができるよう「見える化」を図り、生徒自身が必要性を感じる家庭学習の充実につなげたい。